

選挙は難しいだろうと考えております。ですので、仮に延長するとなった場合は、先ほど申し上げました令和7年度の山形県知事選挙からと考えます。

○鈴木富美子議長 4番、鈴木 裕議員。

○4番 鈴木 裕議員 早くても県知事選からということかなと、私も委員長のご答弁をいろいろ伺いして感じたところです。

やはり1時間繰り上げて投票するという事は、1時間、選挙する時間を失うこととなりますので、有権者の選挙権を奪うことのないよう、慎重に進めていかなければならないなども、委員長おっしゃるとおり、認識しております。そのための市民への意向を確認するために、市民1,000人に対するアンケート調査やっていると、ごもっともで、大変有意義な方策かなと思っております。希望とすれば、それらを早くまとめていただいて、市民の意識、意向がどのような感じなのか、まとめていただいた上で、また、議会にも報告いただく中で、早めに1時間繰り上げることが決めていただければなと思っております。一番早い、これから訪れる選挙、令和7年の県知事選挙に向けて、ぜひ1時間早く投票締切り時刻ができることをお願いしたいと思います。

それから、先ほどの住居表示の件での市長の答弁いただいたわけですが、館町南には確かに田んぼがまだまだ田んぼという形で残っているところが多いわけです。ただ、道路沿いに下水ますなんかも設置されてる区画がありまして、そういうところについては、いずれ宅地造成になるのかどうか、想定されて下水ますがあるのかどうか分かりませんが、多分想定されておるのかなと思ったりもするわけですね。そういう区域もあるものですから、そういうところについては、住居表示区画として、田んぼであっても区画みたいな形で、位置づけできないものかななんて思ったりもする……。

○鈴木富美子議長 鈴木議員に申し上げます。先ほど告知あったわけですが、今、2項目めに入った後の質問なので、その質問はなしということでお願いしたいと思います。

○4番 鈴木 裕議員 いや、先ほど、時間の配分もあるので、大きな2つ目のテーマに移る際、市長にも申し上げましたが、後ほどさせていただくというお話をさせていただいて、2つ目の大きな質問に移って、こちら終わったわけなので、再質問という形でなくて、市長の答弁に対してもう少し伺いたしたいと、こういう意味なんです。

○鈴木富美子議長 一問一答ですので、1つ目の質問終わった後にしていただければいいんですが、今、2項目めに入った後なので、それはやめていただきたいと思います。

○4番 鈴木 裕議員 絶対駄目ですか。駄目ですか。

○鈴木富美子議長 駄目です。

○4番 鈴木 裕議員 分かりました。じゃあ、終わりですよ。

それでは、非常に残念なんですけど、先ほど市長の答弁いただきましたが、そこは理解するところですが、何とか早めに住居表示を進めていただくようお願いしまして、質問を終わります。

梅津善之議員の質問

○鈴木富美子議長 次に、順位12番、議席番号14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 おはようございます。

9月定例会一般質問、最後の質問になりました。鈴木裕先生の何か腑に落ちない質問の後で、大変申し訳ないでございまして、私、させていただきたいと思います。

まず、日々、農業者として汗を流しているわ

けですが、今年度ぐらい大変な状況はないかなと思っております。酷暑と言われるぐらい、農作物にも非常につらい1年であるという感じをしておりますし、今日の山形新聞の1面に、庄内地方で稲刈りが始まったと、8月に刈るのは何十年も農業やってはじめてのことだなんていうことが記事に載っておりますが、このぐらい暑いと作物もなかなか育つのに大変な暑さだったなと思っておりますし、これから収穫を迎えるわけでございますけれども、大変な秋になるのではないかなと不安に思っているところがございます。

ただ、用水路には満々たる水が長井ダムから流れております。当たり前のような感じはしておりますけれども、実は各地域で水不足で困っている地域はたくさんあって、隣の白川ダムであったり、周りのダムでも大変な水不足で苦労しているところがある中で、長井ダム、今日の貯水量でまだ71.8%だそうです。確かに減ってはいましたけれども、満々たる状況で、9月中頃まで用水路の取水があるわけでございますが、非常に感謝したいと思っておりますし、当たり前が感謝できる農家でありたいと日々思っております。

さらに、私、バスケットボールのクラブチームの代表をしております、夏休み期間でしたかね、南中で19、20日と練習試合をさせていただきました。縁あって、青森県の八戸市のクラブチームがぜひ来たいということで、練習試合をさせていただきました。何といたってもエアコンの入っている体育館で、男女合わせて10チームぐらい集まってやったわけです、2日間にわたって。親も子供たちも快適な空間で、思う存分、練習試合をさせていただきました。結果は、地元のチームは大敗したわけでございますけれども、子供たちにとってはいい経験ができたなと思っておりますし、体育館にエアコンがあるということ、本当に感謝申し上げたいと思ってお

ります。本当にありがとうございました。

さらには、27日、地域で川払いの事業をさせていただきました。私の部落、60戸の戸数があるわけでございますけれども、その中で、実質農家をしているのが3軒です。全く農家以外の方に農用地の関わるだけでない排水路や用水路も朝6時から、終わったのが11時ぐらい、日中暑くなつたんですけれども、大変な中でご協力いただきました。

その中で、75歳以上の高齢者には、無理して出なくてもいいよと申し上げてまして、無理しないでくださいと、こう申し上げてるんですけども、ぜひ出たいという高齢者の方もいらして、どんなことでも協力させてほしいなんていう方がいらっしやいました。無理しないでくださいねなんて声をかけながら、ごみ拾いや川の中に入らなくてもペットボトルなんか捨てられてるのを拾っていただいたり、地域の環境の美化にもご協力いただいていること、これもまた感謝申し上げたいと思っております。地域のことをみんなで協力してできるということを地域の人にも感謝申し上げたいと。

今日はその感謝ということを含めて、一般質問させていただきたいと思っております。

1問目の子供食堂についてです。コロナ禍の前から非常に私、興味を持っておりまして、地域には必要なものだなと思って見ておりました。何らかの支援ができないかと悩みながらも、コロナ禍であり、食事を提供するということが自体なかなか難しい3年間が過ぎてまいりまして、ここに来て、様々な団体が活動を始めていただいているような状況だとお伺いしました。今日は、傍聴席にもぜひという話をさせていただいて、お見えになっておりますので、ぜひ市長には前向きな答弁をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

まずはじめに、市内で開催している子供食堂の実態はということで、厚生参事のほうにお伺

いしたいと思います。

○鈴木富美子議長 梅津義徳厚生参事。

○梅津義徳厚生参事 お答えを申し上げます。

現在市内で開催されている子供食堂の実態はというご質問でございますが、子供食堂につきましては、正式な定義はないものの、無料、または低額の食事の提供がなされ、子供が一人でも行くことが可能な場のことをいい、その運営は、企業やNPOなどの法人のほか、個人や任意の団体など、様々な主体により、非営利で実施されているものと考えます。最近では、子供のみならず、全ての人の居場所づくりのため、地域食堂という名称で、学生や高齢者など、幅広い年代の方々の交流の場としての開設も増えてきており、長井市では、1個人と3団体により4か所で実施されております。

紹介をさせていただきますと、その1個人、3団体の名称と運営主体ですが、まず、社会福祉協議会、ボランティアグループ「りんの会」で実施している虹のひろば、2つ目に、個人の方が実施していただけるあずま〜る「キッズ」、3つ目に、ど田舎停車場で実施しているフラワー子供食堂、4つ目に、「ふれあい食堂もぐもぐ」の会で実施しているふれあい食堂もぐもぐの4か所となり、それぞれ月1回程度実施されているようであります。昨年度までは、コロナ禍ということもあり、食堂としての機能を停止し、食材配付の実施となっておりますが、今年度からは食事の提供を再開されていらっしゃるようです。利用されている方は、親子で利用される場合が多い状況ですが、子供だけの利用や単身高齢者などの利用もあるようです。また、活動は親子の交流にとどまらず、学習支援などを行っていらっしゃるところもあり、それぞれ特色を持った活動に取り組まれているようでございます。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 私も全部回り切れなか

ったわけでございますけれども、時間の都合つくり、いろいろの方とお話をさせていただきました。厚生参事がおっしゃるように、まずは、子供の学習支援だったり、不登校や障がい者の方も含めた子供食堂をなされて、親御さんの話を聞いたり、その相談に乗ったり、もちろん学習支援もしながらやっている団体であったり、高齢者や生活困窮者も含めた独り暮らしの方も含めて、子供食堂としてやっていらっしゃる方もあります。さらには、社会福祉協議会では、まだ食事の提供はしてないんですが、フードバンクといいますか、生活の足しにしてくださいということでやっているそうです。

さらには、今日の朝、やっど田舎の駐車場の会の方にお会いをしてきました。何しに来たんだみたいな顔されましたが、思いは一緒で、地域の子供たちや様々な家庭環境の中の子供たち、もちろん大人の方も含めて、支援していきたいんだというお話でございました。いずれにしても、全くのボランティアで、様々な方の、多くの方の支援もいただきながら、少しずつ始めていらっしゃるという状況でございます。

厚生参事が把握している範囲内で、今現状、問題点や課題など、把握していることがあれば、お聞かせいただきたいと思います。

○鈴木富美子議長 梅津義徳厚生参事。

○梅津義徳厚生参事 お答えをいたします。

子供食堂につきましては、市が直接関与しているものではなく、それぞれの団体の方が目指す支援を実現すべく行っていらっしゃるものですので、正式に運営に係る課題等の調査を実施した経過はございませんが、コロナ禍前に行われていた子供食堂につきましては、子育て推進課の担当職員が参加させていただいた機会があり、実際の利用者の状況を拝見したり、家庭児童相談員が利用者の相談に乗ったりするなど、各団体の方との情報交換を行ってまいりました。子供食堂の活動は、今、議員からもありました

ように、徐々に通常に戻ってきていらっしやる
ようですので、職員の参加等につきましても、
再開をしていきたいと考えております。

議員から今ご質問ありました各団体での課題
ということですが、お聞きをしているのは、各
団体では、利用者の数が徐々に増えてきている
ことや、最近の物価高騰などから、その食材の
調達方法に様々な工夫をされているとお聞きし
ているところです。その運営自体について、特
に大きな問題はないと認識をさせていただいて
おります。ただ、団体によっては、利用者の増
加に伴い、会場が手狭になってきたことによる
開催場所の確保やコミュニティセンターを利用
する場合の施設使用料の減免についてご相談を
いただいた経過もあり、必要に応じて連携を図
らせていただいておりますし、今後につきまし
ても、関係機関との調整などご協力をさせて
いただきたいと思いますところでございます。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 市役所もいろんな事業
や計画、そして、今回は「くるんと」のオープ
ンなんかで、本当に忙しい状況を抱えているの
は重々、私も承知でございます。けれども、こ
うやって多くの方がボランティアで地域を支え
ていくということに対して、一緒になってやっ
ていきたいというのは、私の思いであります。

一度、ご飯を一緒に食べさせていただきまし
た。その中で、いっぱいお母さん方の悩みを聞
いてらっしゃる方や、何よりも子供たちが生き
生きと伸び伸びと遊んでいる姿は、これからの
子供たちにとっては大事な居場所であるという
ことを痛感しました。大切なことを全くのボラ
ンティアでやっていただいている状況を一緒に
なって、市も、当然私たちも含めて、支えてい
けるような組織があればなど私は思っております。

この6年間で、子供食堂が何と23倍以上、全
国で7,000か所以上にもなっているというよう

な状況です。これは昨年の12月現在のデータで
す。ここは、もちろんいろんな形で支えていく
姿はあると思いますけども、ぜひその輪に、感
謝の輪と一緒に入ってやっていけたらなど私も
思っているところでございます。その辺につい
て、市でできることはないかということで、市
長からお伺いしたいと思っております。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 梅津善之議員のご質問にお答え
いたします。

議員のほうからは、子供食堂の長井市内の現
状と今後のことについてということで、いろい
ろご提言いただいているわけですが、市として
支援できることがないかということなんですけ
ども、子供食堂は、いろいろな事情があって、
子供たちを食を通して何とか励ましてあげよう
ということで、いわゆる市民の皆様のお持ち
の方が、学校や、あるいは家庭以外の第三の
居場所として、そういったことも含めた様々な
活動をいただいていることに対して、敬意を日
頃より表しているところではございますが、多
くの団体が、私ども行政のスタンスとしては、
何か団体側から声をかけていただければ、お手
伝いさせていただきたいと。そういうふうによ
自主的にいろんな活動をなさっているところに
我々が勝手に入り込んで、何か困ったことがあ
ったら応援しますというよりは、むしろ、私ど
も行政と、特に市の社会福祉協議会があるわけ
ですけども、そちらのほうで恐らくコーディネ
ートしていただいて、相談なども受けてやって
いただいていると思っています。

実態は私も正直なところ分かりませんが、
そういう意味でいえば、私どもが何かお手
伝いする必要があるれば、これは喜んでさせて
いただくというスタンスでおりますが、議員か
らもありましたように、コロナ禍の前はもう少し
活発になさっていた団体などもあったんです
が、コロナ禍ということで、集まることがなか

なか難しいこの期間に、少し見直しといえますか、休止されているところもあったと聞いてますので、そういった意味でいえば、この春からはかなり以前のような人と人との触れ合いといえますか、あと、困ったときにはいろいろ手を差し伸べる、そういったことができるようになりましたし、あるいは、受ける側も、そういったことで、感謝を込めながら、一緒になって楽しめるような、そんな時期になりましたので、大変いいご質問いただいたと思っております。

現在開設しております子供食堂の多くは、開設に当たりまして、市の相談、これは先ほど子育て推進課の話ありましたけれども、そのほか、社会福祉協議会のボランティアグループ「りん会」ってあるんですが、こちらで実施している子供食堂の虹のひろばで視察や運営の方法などを勉強しており、私どもとしては、社会福祉協議会と市というのはもう一体ですので、社会福祉協議会が一つのキー団体なんだと考えております。

社会福祉協議会では、広くボランティア団体の情報交換の場を設けていく予定としておりまして、そこに子供食堂の参加も検討しているということでございます。また、9月に予定されている長井市のふれあい福祉まつり、いつも学習プラザでさせていただいているわけですが、そのふれあい福祉まつりで、「子ども食堂・地域食堂の実践事例がわかる研修会」を開催して、子供食堂の事例紹介や基本的な情報、活動のポイントなどを紹介する予定としております。

議員からありました、運営に対する補助についてでございますが、県内自治体の支援の状況を見た場合、特に私どもは県内13市のつながりというのは非常に深いわけですが、設立に関する支援を行っているのが2市あるということ、それから、運営に対する支援は、直接的には行ってないんですけれども、県や日本赤十字

社などによる補助制度がありまして、現実、長井市内でも2か所の子供食堂がそういった補助金を活用していただいているという状況のようでございます。

非常に物価高で食材の調達も非常に難しくなっておりますが、食材の調達方法では、フードバンクの活用が上げられますけれども、毎年、社会福祉協議会が窓口となりまして、食料等の寄附や提供を受ける、その提供を受けて、その一部を子供食堂で活用していただいているようでございます。

長井市といたしましては、実際のノウハウを持つ社会福祉協議会と、今後より一層密に情報共有をしながら、ぜひ今後も各団体からの相談や問合せ等にしっかりと対応するとともに、要請とか希望がありましたら、補助などももちろん検討しますが、例えばあやめR e p oなど、市の広報等を利用した活動の周知などにも協力してまいりたいなど。

私ども長井市は、昨日、平井議員からもありましたように、ダイバーシティ、多様性とインクルージョン、本当に誰一人取り残すことなく、みんなで力を合わせて、お互いを理解し合いながら、支え合う地域をつくっていかうということのをこれからのまちづくりの柱に据えてますので、そういった意味では、こういった子供食堂、地域食堂というのは、本当に私どもにとってはありがたい。ですから、一緒になって私どもも活動していく。

こういった寛容性のあるインクルージョン、ダイバーシティ、そして、誰もが心身ともに健康で、社会といろいろつながって、その人なりのウェルビーイング、幸せ観を持続できる、そんなまちを目指していきたいと思っておりますので、ぜひ今後ともこういった活動を、私どももまだ情報収集足りなかった部分あるかと思っておりますので、今後とも継続して情報交換と、また、支援等について検討してまいりたいと思っております。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 悩みをいろいろお聞きしてると、たとえそれが解決できなくても、何か違う人と相談すると、いろんな案が出たり、全部解決しなくても、半分、心すっきりしたりなんかということは、子供も、そのいろんな問題を抱える親も、あると思います。一つは、こういういろんな団体をまずネットワーク化して、まず、お互いの悩みであったり、そういうことを話し合う場であったり、今、市長からフードバンクのこともございましたけども、私、農家やっててすごく思うのは、商品にならなくても、全然食べられるものってたくさんあるんですよ。本当に悲しい話ですけども、食べていただいたら、キュウリでもナスでも大根でもうれしんだらうなと思いつつながら、捨てる必要のないものなんていうのはたくさんあって、そういうことをお互いネットワークでやり取りできる組織があると、すごく皆さんもやりやすいし、そういう支援の輪が広がっていけばいいなという思いであります。さらには、ネットワークの中で、いろんな発信の仕方であったり、今はSNSとか、今、市長からあやめR e p oなんていう話もありましたし、いろんなことを相談できる場所と一緒に市役所も中に入っていて、できればなと思って、本日は提案をさせていただきました。

できることから少しずつで全く構わないと思います。一緒になってやってくれる方も3人、5人、それが広がっていったり、悩みを聞いていることが大きくなったりすることがあったり、そういう輪を広げていくことが将来の長井市にも、そして、何より子供たちがこれから生きていく上で、両親はもとより、おじいちゃん、おばあちゃんなんかと接する機会は当然あると思いますけども、いろんなにぎわいをつくりたいと思っていて、それからこぼれる子供をなくしたい。例えば多くの子供や大人と関わることで価

値観が変わって、自分の選択肢が広がる。さらには、貧困であってもなくても、子供たちが多様な体験と価値観を伝える地域、社会でありたい。そんな長井市でありたいと私は思っておりますし、子供たちの想像力を広げて、生活力を高めることは、私たち、未来をつくる子供たちと一緒にこの長井市もつくっていかねばならない。

これはすごく思うのは、私、小さい頃、やんちゃな餓鬼だったというわけではないんですが、地域の人に育てられたという思いがあります。10月ぐらいになって、寒くなるんですけども、私、半ズボンで小学校に通ってるんですよ。そうすると、地域の方が、あそこの息子、寒くねえなんべかって、うちさ、電話かけてよこしてけんなよね。すると、母親は、恥ずかしがりながらも、おまえ、人前もあんだから、少し、ズボンぐらい履いていけと、こういう話になるんですけど、私はあったかいから、別に半ズボンで元気に行くわけなんですけど、地域の方に見守っていただいているという気が今もすごくありがたかったなと思っておりますし、そんな地域がこういう形で携われる場所、さらには、これからやりたいとか、声をかけていただければ、各地域でとか、本当に小さいことからでいいと思いますので、できる機会があると思っ

ている方もいますし、何かしたいんだけど、どうしたらいいかななんて悩んでる方もいるかもしれません。そういうことも含めて、いろんな市民が関わり合いながら、大きな大きな団体というか、その考え方を、地域みんなで支える仕組みをつくっていければなと思っておりますので、もう一遍市長から答弁いただきたいと思

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私自身は、今日、この子供食堂のご質問をいただくというのは分かってたんですが、昨日、平井議員の一般質問で、少しやり取りさせていただきましたけども、あと、教育

長も。まず、今の時代の認識、とにかく人口減少というのはますます厳しくなります。例えば、この間、老人クラブ連合会の皆さんと話したときに、老人クラブの役員の人たちも嘆くんですよ。もう会員がどンドン少なくなって、組織自体が大変になっていると。入ってくれないと言うんです。一方で、ミニデイサービスのほうには行くみたいだと。でも、ミニデイサービスの皆さんから聞くと、ミニデイサービスを実施するためのボランティアをしてくれる方がもうどンドンいなくなると。そして、もう自分たちがミニデイサービスのボランティアの方たちに支えてもらいたいんだと、そういうふうに言うわけですよ。

若い人たちから見れば、やはり進学とか、あるいは就職で、一旦県外に出てしまいますと、割と若いうちは居心地がいいわけですよ、都会に行けば、人に干渉されないし、自分で大変なときは大変で、実家に帰るとかあるのかもしれないですけど、それなりに楽しめる。ですから、田舎のよさというのは、困ったときには思い出しますけど、なかなか若い人たちは、残念ながら、やはり地域の若い人たちというのは、山形県は特に女性の方が47都道府県のうちのワースト3に入るぐらい、一番県外に出ている県ですから、当然子供も少なくなってきて、そんな中で、じゃあ、どういうふうにして、この長井の地域、あるいは我々の暮らしを支えていくかといったときに、例えばもう今までには考えられなかったんですけども、職場に外国人の方がたくさんいる。学校にも外国人の英会話の教師が必ずいる。地域にも隣のアパートに外国人の人が住んでいる。そういう時代で、これがさらにいっぱい、どンドンどンドン増えてくるはずなんです。そうしないと、日本の労働力不足で、企業自体が大変なことになると。

ですから、そういう意味でいえば、みんなそれぞれにいろんな問題を抱えてて、もうそれを

解決するために、私どもとしては、まず、地域ということ考えていったときに、長井市内の6地区をしっかりと、今までの社会教育、青少年育成だけではなくて、地域づくりの拠点となって、地域福祉であったり、いざというときの自主防災、あるいは、健康づくりのための市民ひとりスポーツの推進とか、そういったところを支える、その組織として、地区公民館をコミュニティセンターにして、それと学校が一体となってね。長井市は小学校、教育委員会、教育長からもご理解いただいて、まず、当面、小学校は統廃合しないでいこうと。むしろ、地域は子供たちを中心に、それを支える我々、中高年、大人だったり、お年寄りだったり、そして、そういったお年寄りや我々も、子供に支えてもらう、そういうスクール・コミュニティみたいな考え方で、これからやっていきたいと。

ただ、それだけではいっぱい抜けるんですね。我々、行政でできることも限られている。あるいは、先ほど言った社会福祉協議会だって、できることは限られている。それをすくう形で、市民の暮らし、それぞれの地域で守るには、コミュニティセンターもやると。でも、それでもやっぱり抜けるところがたくさんあるんです。

そういったところが私は今回の子供食堂やら、あるいは、様々な志、目的を持って頑張っておられるNPOとか、様々な団体だろうと思っておりまして、そういったところが多重的に、多構造で、この長井の地域が本当に住みやすいと、安心して、誰にも優しい、そういうまちなるための必須要件だと思っておりますので、したがって、子供食堂については、改めて議員からご質問いただいて、もう少しやれることを、もうむしろ待ってるんじゃないかと、我々のほうからも声かけながら、一緒になってできることなどもご提言いただいて、共にこの地域の一緒に住む我々が小さいお子さんからお年寄りまで、みんなで力を合わせて、自分なりに幸せに暮ら

せるように、そんなまちを目指して頑張りたいと思いますので、引き続きよろしくお願ひします。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 前向きな答弁をいただいております。

一つ、私、質問抜けてたんですが、公民館、コミュニティセンターになってるんですけども、その減免の対象に載ってないというか、これは私びっくりしたんですけども、基本的には料金を払わなきゃいけない状況、今は子育て推進課にお世話になって払ってる団体もあるというような実情があります。何も営利目的でやってるわけでない団体で、皆さん、ボランティアで協力し合いながら一生懸命やっている方々のことでございますので、せめてコミュニティセンターぐらいはということで、ご支援いただければということ、最後、市長からちょっと答弁いただけますか。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ちょっと私もそれは知らなかったんですが、各コミュニティセンターのほうに早速、長井市コミュニティ協議会、コミュニティセンターの減免については、子供会や地域のボランティア団体など、多様な団体が利用するというので、現在、市とコミュニティ協議会でどのような団体、活動を減免するかを含め、減免制度の在り方について協議しているということですが、これはもちろん減免しないと駄目ですよ。そんな協議の以前の問題ですよ。それをコミュニティセンターの館長さんとか、主事の皆さんが分かれば、そんなの、お金頂いたらおかしいだろうと言いますよ。何を堅いことを。

そういう状況のようですから、なお、それはもちろんしなきゃいけないと思いますし、あと、それ以外の例えば市の施設があるわけですね。旧長井小学校第一校舎であったり、「くるん

と」なんかは、ちょっと施設の立場が違うんですけども、場合によっては、そういうふうにしつかりとした、そういう地域食堂であったり、子供食堂的な居場所づくりとして、非営利でなさっているところについては、しっかりとそこは減免、免除する考えでいきたいと思っておりますので、文化会館も場合によってはできると思われますので、ぜひその辺のところを整理して、できるだけ早くそういう不便ないようにしたいと思います。ありがとうございました。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 議場でありがとうございましたと言わないようになって言われたんですけども、本当にありがたい答弁でありますし、コミュニティセンターの職員なんかは、全然前向きなものでした。ただ、原理原則を言われれば、載ってないというのが、こういう……。

(「それは、そういうものは状況によって変えるものです」の声あり)

○14番 梅津善之議員 そうですね。

(「市で決めたんですから、状況によって、そういうものは変えなきゃいけない」の声あり)

○14番 梅津善之議員 ぜひ、その辺、ご苦労されてたという現状もあるということをお伝え申し上げて、よろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございました。

次に移ります。新しい庁舎になってということで、質問をさせていただきたいと思っております。

この議場も、私が入った頃は、本当に暑くて、夏は非常につらかったなと思ひながら、快適な議場でこのように質問させていただくことを本当に感謝申し上げたいと思ひますし、職員の方も何か所にも分かれていた庁舎が1か所になって、非常に仕事もスムーズにいったるのではないかなと思ひしております。その辺について、総務課長にお尋ねしたいと思います。

○鈴木富美子議長 三瓶仁之総務課長。

○三瓶仁之総務課長 お答えいたします。

新庁舎となりまして、議員、今おっしゃいましたが、市内に分散されていた市の機関が一つに統合されておりますので、市民の皆様を本庁舎1か所でお迎えすることができるようになりました。必要な手続などが本庁舎のみで完結することになり、利便性の向上に大変つながったと感じております。また、職員にとっては、ほかの部署との連携がスムーズになったと実感しているところでございます。

旧庁舎のほうは、冬は寒くて、夏は暑い、業務を行うスペースが狭い、床が少し斜めになって、補修をしながら使用している箇所が多々ありました。新庁舎に移ってからは、明るく冷暖房が完備され、快適な職場環境の中で業務を行うことができるようになりました。職員の声ということですが、毎年、労働安全衛生委員会を開催しております。そこで各職場の代表から意見をいただいております。それを受けて、職場点検のほうも実施をしております。新庁舎になってからは、特段大きな問題はないと認識しております。ただ、新庁舎は執務室が来庁した市民の方から全て見えるようなフラットな造りになっておりますので、職員は、旧庁舎よりも、より緊張感を持って業務に当たっている状況でございます。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 本当に快適な庁舎で、ありがたいもんだなと私も思います。ただ、何か職員からは駐車場が遠くなるとか、様々な声は聞こえてることも現実にあると思います。

(2)に移ります。業務が多忙で、お休みになっている方、多忙でというか、心病んでしまって、休暇、休職している方というのは何人で、その方はどのぐらいの期間休んでいらっしゃるか、ちょっと教えていただきたいと思います。

○鈴木富美子議長 三瓶仁之総務課長。

○三瓶仁之総務課長 お答えいたします。

長井市職員の勤務時間、休暇等に関する条例

に規定されている特別休暇の中でも病気休暇を取得している職員は、現在4名、地方公務員法の第28条のほうに規定されている長井市職員の分限に関する手続ほかに関する条例に規定されている病気休暇を超えて、休職処分を受けている職員は1名となっております。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 なかなか職務が大変で、苦勞している方がいらっしゃるなんていう話もお聞きしましたし、1名休職している方というのは、期間はどれぐらいなのでしょうかね。

○鈴木富美子議長 三瓶仁之総務課長。

○三瓶仁之総務課長 お答えいたします。

病気休暇は、例えば3大疾病、悪性新物、精神疾患では、病気休暇は180日でございます。それを超えておりますので、それを超えてになると、休職処分ということになります。180日を超えた日数でございます。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 180日をどれぐらい超えてるんですかね。

○鈴木富美子議長 三瓶仁之総務課長。

○三瓶仁之総務課長 現在ですと、個人の特定というか、個人のことも関わりますので、おおよそそれから30日以上超えていることとなります。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 いろんな事情でお休みになっている方がいらっしゃるということはお聞きしておりますし、もちろん元気になって、復帰して、職場で働いていただきたいなと私も願う一人でありますけども、なかなかそうでない方がいらっしゃるという現実もあるということをお聞きしてるところでございます。働きやすい職場ということ、人材育成が必要だと思えますし、管理職として様々な方がいて、それを管理するのもなかなか大変であるということも十分認識しております。

今後というか、いろんな職員がいる中で、市民に向けて、職務に専念できるように、頑張り過ぎて体調壊すようなことないような対応が必要だと思いますし、体調を壊された方も復帰できるようなプランも含めて考えていらっしゃると思いますので、副市長から答弁をいただきたいと思います。

○鈴木富美子議長 齋藤環樹副市長。

○齋藤環樹副市長 梅津議員のほうから全ての職員が働き続けることができる職場環境と、そのための取組というお尋ねでございます。

まずは、職場環境の整備ということでは、先ほど三瓶総務課長が申し上げましたとおり、物理的な環境としては、新庁舎は前の庁舎とは比較にならない快適な執務環境だと考えております。それに加えて、働き方に合わせて、例えば職員の妊娠、出産、育児、介護支援の観点からも、以前、私が市役所に入った頃などと比較しても、格段に充実した多種多様な休暇、休業制度が設けられております。育児中の職員や家族の介護が必要な職員等が無理なく働き続けられるよう、今後も国等の制度に準じた様々な制度の充実、そして、職員への周知を行い、効果的な運用を図っていきたいと考えております。

それから、今年度から定年退職年齢が引上げとなります。あわせて、働き方の選択肢が増えてきていると。自分に合った働き方の選択について、50歳代の職員を中心とした説明会を開催するなど、早期の周知に努めているところでございます。今後10年間で多くの職員が退職、もしくは再任用職員へ移行する見込みであり、当該職員本人の働き方はもちろんのこと、そのほかの職員が引き続き円滑に行政事務を執り行えるよう、職員のスキルアップをはじめ、階層に応じた各種研修を積極的に実施していきたいと考えております。

また、全ての職員が働き続けることができる職場環境づくりという意味では、最近の職員の

勤怠、勤務の状況、人事の状況を考えますと、職員の心身の健康管理が最も重要だと考えております。現在、市が整備している安全衛生体制の中で考えますと、とりわけ、初期の段階での本人や周囲の気づきが重要だと思っております。まずは、管理監督者による日頃の職員の勤務状況や態度の把握や把握、早い段階からの管理監督者による面談、職員自身のメンタルヘルスを含めた健康に関する知識の習得、自発的な相談を促すことなどが大切だと思っております。そのためにも、職員や管理監督者に対するカウンセリングマインドに重点を置いたスキルの習得機会の一層の充実も必要かなと考えているところでございます。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 言葉ではなかなか難しくというか、大事なことだなということを副市長から直接、私もお聞きしている現状にはあるんですけども、一生懸命やろうと頑張っている子ほど、抱え込んで、壊れていったりするのを見ていると、やっぱり周りの人であったり、当然、管理監督する上司であったりサポートしていける体制が大切でないかなと思っております。

まして、マイナンバーのことがあったり、様々な計画であったり、補助事業を受けるには、ただ受かるわけではありませんので、職員として、多忙な業務、それもルーチンでない、いろんな業務をこなしていかなければならない。それも、昨日も鈴木悟司議員からありましたが、一生懸命やっても、農家のために採択に全くなんねがったりすると、やっぱり職員もやる気もなくなってくる現状もあるんだよね。本当にこれは、自治体としてしようがないことであるにしても、その辺もケアしながら、課、それと係も含めて、全体として仕事できる、そして、体調悪くならないような、体調に支障を来さないように見ていただける上司、管理監督していく

ことが大事だと思います。ここは通告していませんが、市長から一言いただきたいんですが、よろしいでしょうか、議長。

○鈴木富美子議長 通告がないので、認められません。

○14番 梅津善之議員 ここで、そこを何とかひとつお願いしたいんですが、よろしいですか。

○鈴木富美子議長 副市長に答弁してもらってはどうか。市長、どうですか、答弁。

○内谷重治市長 議長の許しがあればお答えします。ただ、ルールはルールでしょうから。

○鈴木富美子議長 通告もないので、副市長にお答えしていただければと思います。梅津議員、よろしいですか。

○14番 梅津善之議員 はい。

○鈴木富美子議長 齋藤環樹副市長。

○齋藤環樹副市長 議員おっしゃることは、そのとおりだと思います。ただ、実情をいろいろ申し上げますと、市町村の事務というのは、かなりの法律の数あるわけですが、そのうちの市町村の責務と言われたものについては、全て対応していかなければならないということがございまして、全ての事務に必要な職員を常に配置していただけるかということになりますと、それはなかなか難しいということになります。

まずは、ある程度必要な人員の配置ということから始まっているわけですが、そういった中で、個別の事務、あるいは、事務の繁閑等で、いろんな職員の心身の健康へのしわ寄せがあるということも把握しておりますので、さっき私、申し上げましたように、やはり基本は職員個人ではなくて、本人もそうなんですけれども、上司、あるいは周囲の職員の気づき、早い時期から何か心身の健康を損なうような兆候が現れましたら、そこは早い時点で気づきを、情報を共有しまして、長井市では必要な労働安全管理体制を取っておりますので、先ほど総務課長が申し上げました職場復帰の判定委員会も

そうですね、そういったことを含めまして、一方で、公務の効率的な運用も図っていかねばならないという地方公務員法の要請もございまして、その辺の法の趣旨を考えながら、誤りのない、適切な判断をしていきたいと考えております。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 ぜひ職員を大事にさせていただいて、ワンチームで前を向いて頑張っていっていただきたいと思います。

私の質問を終わります。

○鈴木富美子議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

散 会

○鈴木富美子議長 本日は、これをもって散会いたします。ご協力ありがとうございました。

午前11時43分 散会